

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	統括部局：教務部	担当部局：教務部、高等教育推進センター
大項目	6 教育内容・方法・成果 《全学的な視点》	
中項目	6.3 教育方法	
小項目	6.3.1 教育方法および学習指導は適切か。	
要素	教育目標の達成に向けた授業形態（講義・演習・実験等）の採用 履修科目登録の上限設定、学習指導の充実 学生の主体的参加を促す授業方法 研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導（院） 実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導（専院）	
小項目	6.3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。	
要素	シラバスの作成と内容の充実 授業内容・方法とシラバスとの整合性	
小項目	6.3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。	
要素	厳格な成績評価（評価方法・評価基準の明示） 単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性 既修得単位認定の適切性	
小項目	6.3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。	
要素	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施	

II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 履修者数が教室の収容定員を超える科目をなくす。(教務部)	→教室収容定員を超えた履修科目数、履修制限科目数(教務部)	C	C			
2. 学習効果を向上させるために、全学履修登録単位数の上限を年間50単位未満にする。(教務部)	→50単位以上の学部・学科をなくす	B	B			
3. 学習を進める上で必要な項目が適切に盛り込まれたシラバスを設計し、記載を徹底する。(教務部)	→シラバスの項目の年度ごとの検証、項目未記入件数(教務部)	B	B			
4. 共通教育としての初年次教育に高学年の学生によるピアサポートシステムを制度化する。(教務部・高等教育推進センター)	→ピアサポートシステムの設置(教務部・高等教育推進センター)	C	C			
5. 全教員が授業調査結果を教育改善に結びつける→全教員に授業調査結果についての改善コメントの提出を求める。(高等教育推進センター)	→授業改善コメント用紙の提出率を50%にする(高等教育推進センター)	C	B			
6. GPA制度を改善し、各種の選考での積極的利用を可能にする(教務部)	→新たなGPAスコア算定基準の策定、各種選考でのGPAの利用度(教務部)	C	C			
			☆			
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
1. 成績評価基準の厳格性を高める(教務部)	→科目ごとの成績分布の公表(教務部)		C			
			☆			

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目6.3.1	<p>6.3.1 教育方法および学習指導は適切か。</p> <p>(説明) 各学部とも教育課程の実施・編成方針を2011年7月を目標に明示することとしており、その後カリキュラムマップ、ツリーの策定により、教育目標、学位授与方針に示す能力を養成するための、適切な授業科目配置と科目に応じた適切な授業方法の設定ができると考えられる。近年、学生参加型の授業を実施している科目があるが、実態は把握できていない。また、単位制度の趣旨から、すでに未完成学部を除き大半の学部が1年間に履修登録できる単位数を50単位未満としており、残る学部も次年度導入に向け検討中である。学習指導に関しては、参考図書、授業外学習について、シラバスに示すことができるが必ずしも示されていない。実際の授業の場での学習指導は授業担当者に任されている。今後、教育方法や学習指導に関する研修会や研究会をFD活動のひとつとして実施していく必要がある。</p>
小項目6.3.2	<p>6.3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。</p> <p>(説明) シラバスには、学生が履修の検討や実際に学習を進める際に必要と考えられる項目は設定しているが、担当者により記載内容にばらつきがある。 2008年度に行った学生による「授業に関する調査」からは、シラバスと実際の授業に大きな乖離はないと考えられるが、全科目調査年に当たる2011年度に、再度学生の評価を検証したい。なお、学部教務主任で構成する専門部会で項目設定や記載内容等について再度検討し、2013年度の学生システムのリプレースに併せ、シラバスシステムの改善を行う予定である。</p>
★ 小項目6.3.3	<p>6.3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。</p> <p>(説明) 各科目の成績評価方法・基準については、シラバスの該当欄に、評価項目、基準、割合等を記載して、学生への周知を図っている。GPAの導入以降、講義科目の場合合格者の平均点を70～75点におくといった原則を授業担当者に周知しており、成績評価は授業担当者に任されているものの、各学部の科目成績全体は75点を平均とした正規分布となっている。単位の認定に必要な学習時間の確保に関しては、一般の調査結果にも見られるが、授業外学習時間は非常に少なく、趣旨に沿った単位認定となっていないことは確かである。なお、留学・海外研修等で修得した科目は、総授業時間数に応じ換算の上単位を認定している。</p>
小項目6.3.4	<p>6.3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。</p> <p>(検証の有無) <input checked="" type="checkbox"/> いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→ <input checked="" type="radio"/> 検証している <input type="radio"/> 検証していない</p> <p>(説明) 高等教育推進センターでは、2010年度春学期は全教員から希望者を募り「授業に関する調査」を実施し、その結果を公表した。在学生5人に1人を対象として「第15回カレッジコミュニティ調査」結果を発行し、第16回同調査を実施した。また各学部のFD活動の結果を「FDニューズレター」にまとめ年度末に発行した。高等教育研究に関わる論考を集めた『関西学院大学高等教育研究』創刊号を2011年3月に発刊した。これらの結果も踏まえ2010年採用の新任専任教員を対象とした「初任者研修」を5日間にわたって実施した。また大学院学生、非常勤講師等の経験の浅い教員を対象としたセミナー「講義方法基礎の基礎」を3日間連続で実施した。</p>
その他	

《評価指標データ》

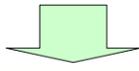
履修者数規模別の授業科目数 (少人数・中人数・大人数)
 少人数授業の授業形態の調査
 規模別講義室・演習室使用状況
 マルチメディア教室の稼働率
 遠隔授業を活用した授業の比率
 各年次semesterごとの履修単位数制限の状況【基本的な指標データ】
 履修者別開講科目数・1科目当たりの履修者数
 学生の授業評価におけるシラバスの有効性に関する質問への肯定的な回答比率 (大学、学部別、授業形態別)
 成績評価の分布が適正な科目 (平均点が70-75点) の比率
 GPA値 (全学、学部別、男女別など)
 定期試験の問題の適切性を検討する会議・委員会の有無と開催頻度
 オープン授業 (授業公開) の全授業における割合
 学生の授業評価の実施率 (全学、学部別)
 学生の授業評価における当該授業への満足度に関する質問への肯定的な回答比率 (大学、学部別、授業形態別)
 在学生のうち、授業をまじめに評価したと思う学生の比率
 在学生のうち、学生による授業評価アンケートの実施が授業を変えるのに役立っていると思う学生の比率
 大学院生の論文件数 (査読制の雑誌と学内紀要等に分ける)
 日本学術振興会特別研究員応募者の有資格者に占める割合
 一括申請による教職免許状取得件数および取得者実数【基本的な指標データ】
 在学生のうち、学生による授業評価アンケートの実施が授業を変えるのに役立っていると思う学生の比率

★ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.3.1	履修登録単位数の上限を50単位未満とすることについて、未完成学部3学部を除き、未決定は2学部となった。なお、未完成学部は完成年次後の対応となる。
小項目6.3.2	
★小項目6.3.3	
小項目6.3.4	
その他	



《次年度に向けた方策(1)》伸長させるための方策

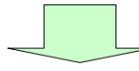
注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.3.1	残る2学部について導入を促す。
小項目6.3.2	
★小項目6.3.3	
小項目6.3.4	
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(2)》改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.3.1	
小項目6.3.2	シラバスの記載内容の充実を図る。授業調査との連携を図り、実際の授業との差異をなくす。
★小項目6.3.3	成績評価方法や基準の大学としての方針の見直し、単位認定に必要な学習時間を確保する授業計画の策定、等の検討
小項目6.3.4	
その他	



《次年度に向けた方策(2)》改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.3.1	
小項目6.3.2	準備学習等に必要な学習時間、オフィスアワー等現在シラバスに含まれていない項目を追加するなど、記載内容の充実方策を検討する。2013年度の教務システムのリプレースにあわせて整備する。
★小項目6.3.3	シラバスに「成績評価方法・基準」「授業外学習の指示」等の厳格な成績評価に関する事項を教務委員会の専門部会で検討する。
小項目6.3.4	
その他	

◎自由記述

《点検・評価》&《次年度に向けた方策》

★その他 (自由記述)	
----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価専門委員会の評価>

【学外委員】

○問題点が的確に認識されて、適切な対応がなされていると評価できます。「目標」5の授業改善コメント用紙の提出率向上が望まれます。

【学内委員】

○履修登録単位数の制限、シラバスの記載の徹底や授業内容との整合性の検証、GPAによる成績評価の原則の徹底、授業評価に基づく授業改善への促しなど、教育方法の改善への着実な努力が窺われる内容となっています。

○シラバスの更なる充実が大切であるが、学生がどれだけシラバスを読んでいるか疑わしく感じることもある。学生にシラバスを読んでもらうための工夫も大切ではないでしょうか。

○「履修者数が教室の収容定員を超える科目をなくす」という目標の進捗評価は昨年と同様にCですが、その改善のための方策が提示されていません。これを実現するには対症的な方策は有効ではなく、抜本的な方策を講じる必要が痛感されます。今後の進展に期待します。せっかくGPA制度を導入したのですから、その積極的かつ有効な利用が望まれます。

○DP、CPが示され、カリキュラムマップ、ツリーの策定と相まって、シラバスの構成要素の再検討が必要ではと思われま。

○丁寧で誠実な記述です。

○履修登録単位数の上限を年間50単位未満にすることについては、着実に取り組まれています。

○昨年度、改善方策とした15週の授業スケジュールについての記述がありません。昨年度の課題を検証することで、PDCAサイクルが機能しているか確認できます。

○学生参加型の授業実態の把握、教育方法や学習指導に関する研修会や研究会の実施、が課題として示されていますが、改善すべき事項ではありませんか。

○昨年度の次のコメントは本年度もそのままコメントとします。

・設定された目標についての進捗状況は適切に記述され、評価されています。しかし、学位授与の方針、教育目標が明示されていない状況の中では目標が限定的なものにとどまっています。

・目標1についてもう少し説明をお願いします。

・FDに関してさらに組織的に機能的に取り組むことを期待します。

・目標に掲げられている「授業改善コメント」提出率の現状について説明をお願いします。また、GPA制度の改善とありますが内容がわかりません。概略をお示しください。

・2006年度の認証評価において、授業評価アンケートについて「助言」が付され2010年7月に「改善報告書」を提出しました。引き続き改善が期待されます。また、現状説明が必要かと思えます。

・小項目6.3.1の要素にある「学生の主体的参加を促す授業方法」については、目標に掲げられた「ピアサポートシステム」など、高等教育推進センターや共通教育センターの活動に期待します。

・成績評価の厳格性が全ての施策の前提条件です。大学としての基本原則が必要でしょう。

・最近文部科学省の動きが早く、すぐに実施に移ってきています。したがって、文部科学省、中教審などの動向をみながら迅速で適切な対応が求められます。

・教室の収容定員を超えている科目数をなくすためには、①教室の数を増やし、教員数を増やすという根本的な解決を図る、②履修者数の制限などの対症的な方策を講ずる、という2種類の方策が考えられます。どちらを基礎に据えるのかということを確認する必要があります。

【大学基準協会の、評価に際し留意すべき事項】

○小項目6.3.1

基盤評価：「当該学部・研究科の教育目標を達成するために必要となる授業の形態を明らかにしていること」「【学士】単位の実質化を図るため、1年間の履修科目登録の上限を50単位未満に設定していること。これに相当しない場合、単位の実質化を図る相応の措置（厳格な成績評価など）が併せてとられていること」「【修士・博士】研究指導計画に基づく研究指導、学位論文作成指導を行っていること」

○小項目6.3.2&6.3.3

基盤評価：「授業の目的、到達目標、授業内容・方法、1年間の授業計画、成績評価方法・基準等を明らかにしたシラバスを、統一した書式を用いて作成し、かつ、学生があらかじめこれを知ることができる状態にしていること」「授業科目の内容、形態等を考慮し、単位制度の趣旨に沿って単位を設定していること」「既修得単位の認定を、大学設置基準等に定められた基準に基づいて、適切な学内基準を設けて実施していること」

○小項目6.3.4

基盤評価：「教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした、組織的な研修・研究の機会を設けていること」

達成度評価：「教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした研修・研究が、定期的実施されるものであり、また、これを踏まえた改善プロセスを明らかにしているなど、教育の質の維持・向上に恒常的かつ適切に取り組んでいる」

○小項目6.3.1～6.3.4

達成度評価：「当該学部・研究科の教育課程の編成・実施方針に従い、学生に期待する学習成果の修得を促進する教育方法を採用している。」（評価に当たっては、当該大学の説明・証明から、下記のことが明らかであるかに留意する。）

・方針と、授業形態等の教育方法の実態との整合性

・学習指導の充実等、学生の学習成果の修得を促進する取り組み

・シラバスを通じて示した授業計画、成績評価方法・基準等の適切な履行

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

・15週の授業スケジュールについては、教務委員会において導入の合意を得た後、導入のための要件、導入年度に関する検討を学長室に提起した。教務委員会では、導入に関する学長室の判断を受け、詳細の検討を行うこととなる。

・学生システムのリプレースに同期し、シラバスの再検討が必要となる。改定ではDP、CPの策定を背景に、シラバスの構成要素の新設や明確化を行う予定である。

・教室環境の改善策として、全学科目の総合コースの申し合わせを改定し、開講時限の分散と開講コース数の削減に着手した。また、新たに建設予定の講義棟については、履修データを分析し、現状最も不足する教室規模を割り出し、教室サイズを決めるなどの対応を行った。

★・授業改善コメントの提出率は専任教員で20%前後と低い。授業調査については高等教育推進センターで検討中だが、授業改善の方策は策定されていない。

・米国で顕著となっているグレードインフレーションは、協定大学に学生を派遣する際障害となっている。学部教務主任を交え、現行4段階のGPを見直し、採点者の実感にあったより細かな算定基準を策定したが、学生自身によるGPA算出が難しくなる点が懸念され、成案には至らなかった。